第6回　船井電機跡地施設整備基本計画策定　検討委員会資料

2025/08/25

第１～5回策定検討委員会での議論　を踏まえて、前提となる施設整備の考え方

- **多様な活動を受容し多世代の利用を促進する施設を目指す**
- **施設全体の機能・空間を融合し合理化することを議論する**
- **中心市街地全体での最適化を図る**
- **検討段階から過程を公開し、合意に必要な議論を行う**

再掲載

人口減少が進む中、全国で新設する公共施設が巨大化する傾向があり、
国は計画規模の適正化を促している。

施設巨大化の起因 ⇨

- 大型施設が街の活性化につながるという思想
- 周辺自治体の同様施設との比較
- 少ない建設の機会に折角ならば大きな施設という考え

地方都市を持続可能にするには施設の合理化などによる
将来的な人口規模に見合った整備が必要

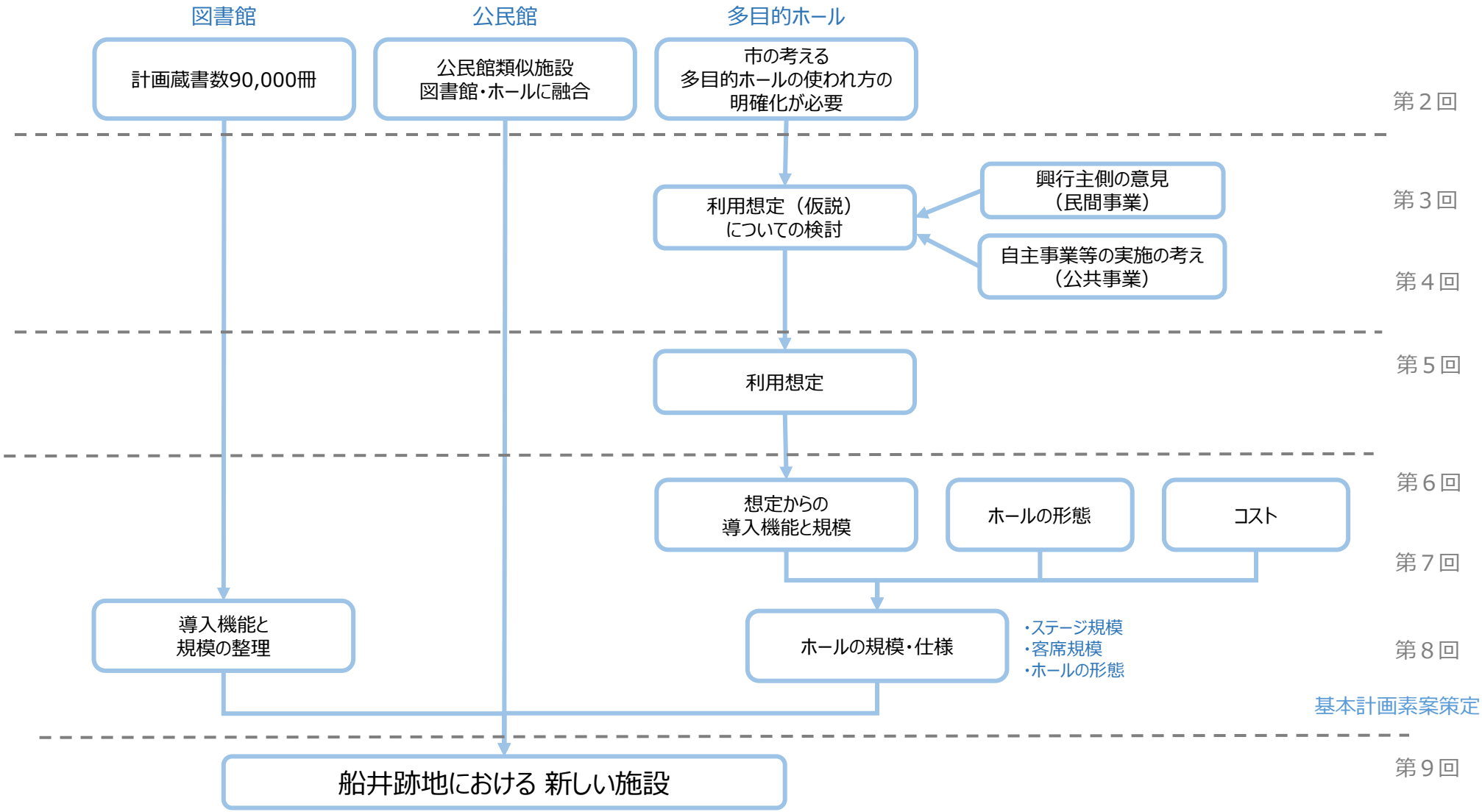
持続可能なまち ⇨ **施設の合理化** ⇨

- 周辺自治体と公共施設を**共有**
- 施設を**多機能化**する　　など
- 必要機能の**取捨選択**

公共施設 は 量を減らし 質を高める 発想が必要

第5回以降の基本計画策定委員会で目指す議論とゴール

再掲載



1．基本計画の骨子

基本計画の全体構成 （案）

1 施設整備の背景

- 第６回 1-1 基本計画の位置付け
- 1-2 三好市の現状
- 1-3 人口推移と人口予測
- 1-4 計画地の状況
- 1-5 立地（ロケーション）
- 第６回 1-6 若年層へのヒアリング

2 各施設機能の課題と整備方針

- 第６回 2-1 三好市に不足する公共サービス機能
- 第６回 2-2 図書館の課題と整備方針
  - 第６回 2-2-1 図書館の現状と課題
  - 第６回 2-2-2 新施設における図書館の目指す姿
    - 第６回 図書館の基本方針・基本的な考え方
    - 第６回 蔵書数計画
- 2-3 公民館の課題と整備方針
  - 2-3-1 公民館の現状と課題
  - 2-3-2 新施設における公民館の目指す姿
    - 基本方針・基本的な考え方
- 2-4 ホールの課題と整備方針
  - 第６回 2-4-1 ホールの現状と課題
  - 第６回 2-4-2 新施設におけるホールの目指す姿
    - 基本方針・基本的な考え方
- 2-5 その他求められる機能・スペース
- 2-6 災害時に求められる機能

3 新施設での整備方針

- 3-1 新施設の目指す姿
  - 第６回 3-1-1 基本方針・基本的な考え方
  - 第６回 3-1-2 融合による施設の合理化
  - 第６回 3-1-3 新施設の全体像
  - 第６回 3-1-4 施設の概念図
  - 3-1-5 施設規模 ・ コスト計画

4 新施設に求められる性能

- 4-1 災害時の想定
- 4-2 構造・耐震性能
- 4-3 利便性・快適性
- 4-4 環境配慮
- 4-5 外観・内観デザイン
- 4-6 外構計画
- 4-7 交通計画・駐車場計画
- 4-8 継続性
- 4-9 音響環境

5 新施設の管理運営

- 5-1 整備方針
- 5-2 管理運営方針

2. 本編説明資料

基本計画の位置づけ

1 施設整備の背景

1-1 基本計画の位置付け

はじめに

三好市では、2012年に船井電機から譲渡された池田町マチ2551番地4,5,11,12,13（以下「船井跡地」）を活用し、老朽化や分散した公共機能の課題を解消する新たな公共施設（以下「新施設」）の整備を進めています。

本基本計画は、基本構想で示した将来像を具体化し、新施設の機能や規模、配置などの方針を定めるものです。

1-2 三好市の現状

- 上位計画
- 経済的制約
- 施設整備状況

1-3 人口推移と人口予測

- 社人研人口推計から見た人口動態（第5回委員会資料 P9）
- 今後も人口減少が続くため、将来的な人口規模に見合った施設が望ましい

1-4 計画地の状況

- 法的制約（第5回委員会資料 P12）
- 物理的状況（第5回委員会資料 P11）

1-5 立地（ロケーション）

- 四国の中心に位置（第5回委員会資料 P10）
- 四国各県の県庁所在地まで近い

若年層ヒアリングの結果

1 施設整備の背景

1-6 若年層へのヒアリング

ヒアリング
これから新施設を使っていく若年層・子育て世代に意見を伺いました。

ヒアリングの方法
ネットアンケートフォーム（Googleフォーム）によるアンケートを行いました。
アンケートの呼び掛け媒体
- 高校生へのアンケート回答のお願い
- 保育園・幼稚園・認定こども園・小中学校の連絡網を通じて保護者層へ回答依頼

2025/6/23～2025/7/22

詳細は別紙「若年層意見聴取調査結果報告書」を参照のこと

若年層・子育て層を中心に意見集約
608件（うち高校生288件）
主な要望意見

- カフェ
- 子どもと遊べる屋内空間
- 学習・読書スペース
- 無料で長時間居れる場所
- 食事もできる場所
- 多世代交流：子ども、親、高齢者も利用できる空間
- 一日過ごせる＝天候に左右されず親子が一日過ごせる場所
- 飲食・学び・遊びができる施設（無料or低額）
- 雨天・猛暑・寒冷時でも使える屋内空間
- イベント・地域交流がおこなれる

→“日常滞在型”・多世代複合・交流拠点への期待が強い（日常の居場所や賑わいを創出する機能）＝**図書館・カフェ・学び・遊び・市民活動が融合した日常拠点を求める声**

こうした声は、総合戦略アンケート（市民：若年層、保護者：保育園・幼稚園・小学生保護者、高校生・中学生）でも全世代共通している。

2 各施設の課題と整備方針

2-1 三好市に不足する公共サービス機能

現在、三好市では規模や機能が十分でない図書館や老朽化した公民館のほか、文化的な事業を実施するために要する施設ニーズへの対応が求められています。

基本構想では、今後一層の人口減少が進むなか、中心市街地の役割では広く市内の暮らしを支える拠点性の持続が求められており、隣接する池田総合体育館とも連携しながら施設の多機能化や合理化を進めるとともに、地域の賑わい創出など地方創生の起爆剤となるよう期待されています。このことを踏まえ、本基本計画では、新施設の機能として、図書館、公民館、ホールを中心に検討を進めます。

図書館

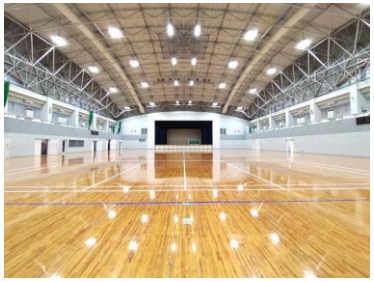
中央図書館

公民館

中央公民館

大規模集会施設

中央公民館大ホール
（200～300人）



総合体育館メインアリーナ
（800～1200人）

総合体育館　サブアリーナ
（300人）

各施設の課題と整備方針（図書館）

2 各施設の課題と整備方針

2-2 図書館の課題と整備方針

2-2-1 図書館の現状と課題

市内の図書館は中央図書館、井川図書館、三野図書室、山城図書室、東祖谷図書室、西祖谷図書室の2館4室と移動図書館の体制で運営しています。

中央図書館は、現在の規模が狭小であることが課題とされており、今後、基本構想に定めるように、適正な規模での、三好市の各種まちづくり計画に準拠するなどした、新しい図書館の整備が望まれます。

三好市図書館（室）一覧

図書館（室）	住所	TEL	開館時間	休館日
中央図書館	〒778-0003 三好市池田町サラダ1836-1	0883-72-2781	10：00～19：00 ※お盆期間中は変更になる場合があります	毎週水曜日・年末年始・特別館内整理日
井川図書館	〒779-4802 三好市井川町岡野前64	0883-78-4311	10：00～19：00	毎週火曜日・年末年始・特別館内整理日
三野図書室	〒771-2304 三好市三野町芝生1039（三野文化財棟１階）	0883-77-2248	火曜日～金曜日　9：00～19：00 土曜日・日曜日・祝日　10：00～17：00	毎週月曜日・年末年始・特別館内整理日
山城図書室	〒779-5304 三好市山城町大川持544（山城公民館内）	0883-86-1135	9：00～19：00	毎週土・日曜日、祝日 年末年始
東祖谷図書室	〒778-0204 三好市東祖谷京上157-2（東祖谷支所内）	0883-88-2211	9：00～17：00	毎週土・日曜日、祝日 年末年始
西祖谷図書室	〒778-0101 三好市西祖谷一宇343-2（西祖谷支所内）	0883-87-2211	9：00～17：00	毎週土・日曜日、祝日 年末年始

2-2-2 新施設における図書館の目指す姿

2-2-2-1 図書館の基本方針・基本的な考え方

図書館は市民に広く図書や情報を提供することで、地域住民の生涯学習を支える重要な役割を有しています。また、図書館には地域における情報センターとしての機能や、ビジネスを支援する機能、さらには集会や展示などを積極的に地域住民と協働で開催し情報や思想が行き交う場としての機能などもあります。三好市で計画する図書館では書籍の貸出しを中心に据えた「貸出型図書館」に限らず、同機能に加え、施設利用者の様々な利用目的に対応できることや、気軽に使え居心地のいい「場」を提供する「滞在型図書館」を目指します。蔵書は市民が興味を持って手に取ってもらえるような魅力的な選書・配架をすることや、多様な人を惹きつけ、施設の日常利用に資する機能として期待されるカフェやキッズスペースを確保することで、目的地となり、常時の賑わいを生む図書館を目指します。

その際、利用者の多様な使い方に対応できるよう、飲食や会話、イベントなど音を出す行為を制限するのでなく、柔軟に対応できるよう、今後の設計運営検討段階で検討していきます。

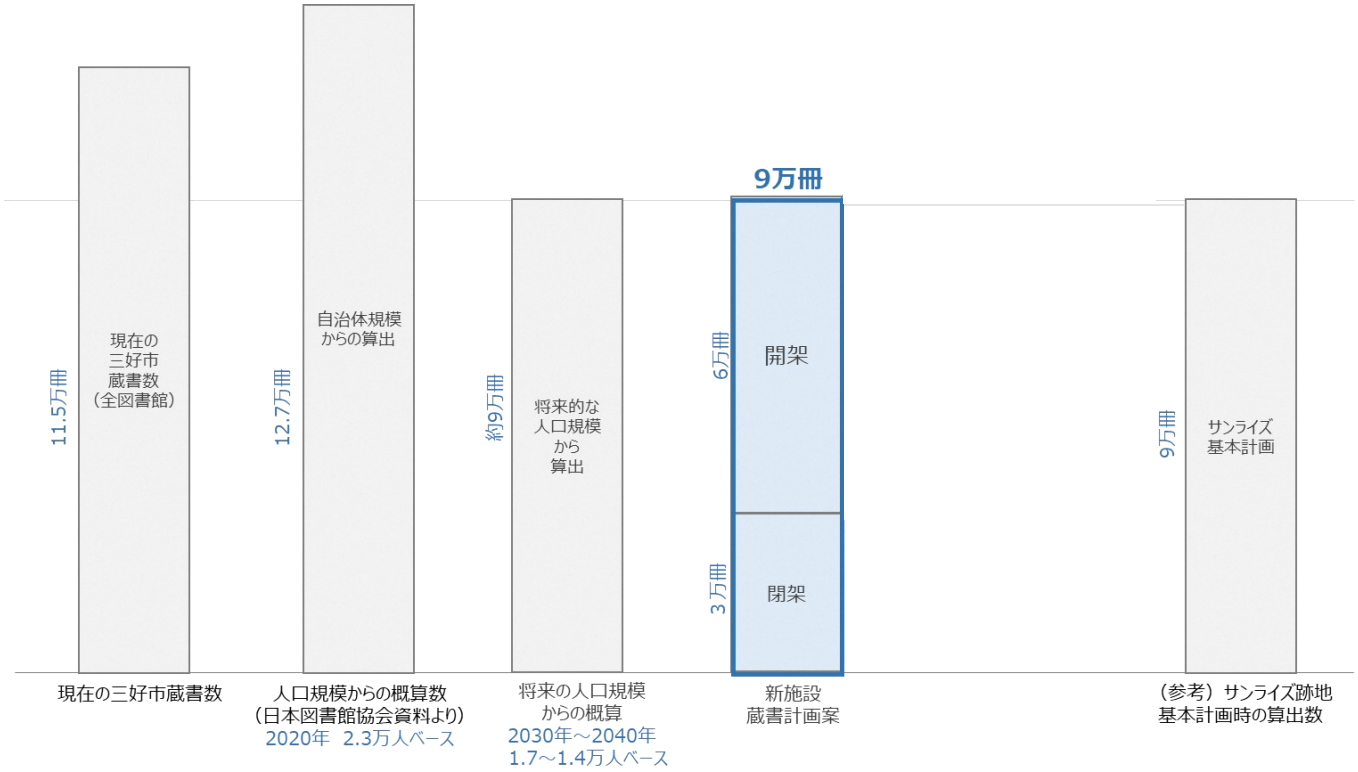
各施設の課題と整備方針（図書館）

2 各施設の課題と整備方針

2-2-2 新施設における図書館の目指す姿

2-2-2-2 蔵書数計画

新しい図書館の蔵書数については、三好市の人口推定規模などから約9万冊の収蔵を目指すとともに、市民が楽しいと感じる選書・配架に配慮します。今後は魅力的な選書や配架が実現できる運営者の選定を検討します 。



各施設の課題と整備方針（ホール）

2 各施設の課題と整備方針

2-4 ホールの課題と整備方針

2-4-1 ホールの現状と課題

2-4-1-1 三好市で行われる集会イベント等の現在

現在、大規模な集会・イベントは、池田総合体育館（メインアリーナ・サブアリーナ）や中央公民館の大ホールを利用していますが、両施設とも本格的なイベントが行えるだけの施設機能はなく、市民が音楽・演劇などの文化に触れる機会も十分ではありません。一方でホールは整備される規模や仕様により大きく空間が異なり、高度な演出が可能な高機能ホールは、初期投資とともに維持管理に多額の費用を要し、市にとり将来的に大きな負担となります。また、ホールを整備することで地域経済の活性化につながる経済的な波及効果の可能性を求める声もあり、このような事情から興行性について検証を行いました。

2-4-1-2 興行性について分析

ホールの整備にあたっては、民間興行が定期的に開催され、来訪者の増加によって経済的な波及効果が期待されるという意見があります。こうした効果の実現性を確認するため、4社のプロモーターにヒアリングを行いました。

ヒアリングでは、各社の事業形態や本プロジェクトとの関わり方が異なるため単純な比較はできませんが、共通して次の見解が示されました。

まず、民間興行が採算を取るためには最低800席、理想的には1,000席以上の客席規模と、それに見合う舞台設備の整備が必要であること。また、十分な設備を整えた場合でも、計画地の立地条件の不利さから、大規模な民間主催興行を積極的に開催する意欲は限定的であることが示されました。

2 興行性についての検証

Q2. 一般的なホールについての質問			A社	B社	C社	D社
Q2-1	貴社の経験から、公演の収支が成立するためには、客席数としておおよそ何席以上が必要とお考えですか。	A2-1	1500席～	1500席以上	演目により変わる。室内楽・小人数演劇・落語などは800席以上、フルオーケストラ・吉本新喜劇などは1200席以上。大型公演などは2000席以上。国際的な音楽家で150万円くらいの原価＋経費（100~150万円）＝400万円の原価。 四国では自主事業を開催する業者が少ない。屋外フェスなどが収益の柱となっている。 想定は1200人（観音寺市ホールは使いやすい） 800席以上の固定席が望ましい。	（出演料にもよりますが）約１０００席
Q2-2	会場として舞台機構設備はどの程度のものが必要でしょうか。	A2-2	東京国際フォーラム ホールCと同程度	全国ツアー規模の公演では 舞台セット・音響・照明機材を11トンクラスのトラック3台～4台程度で持ちまわります。持ち回り一式が搬入出できる搬入口スペース・留め場、機材が設置できる舞台機構・照明設備・音響設備・電源容量、充分なステージ横幅、奥行きが必要です。四国内既存の1500席程度の会場舞台機構をご参考ください	吊物は演目により異なる。緞帳は必要。	
Q2-3	会場として舞台照明設備はどの程度のものが必要でしょうか。	A2-3	東京国際フォーラム ホールCと同程度	上記同様	持ち込みが多い	
Q2-4	会場として舞台音響設備はどの程度のものが必要でしょうか。	A2-4	東京国際フォーラム ホールCと同程度	上記同様	持ち込みが多い	
Q2-5	会場として音響環境はどの程度のものが必要でしょうか。（残響時間など）	A2-5	東京国際フォーラム ホールCと同程度	上記同様	音響反射板は最低限必要。スクリーンと音響反射板が両立できる機構が望ましい。演奏と映像のコラボ。	
Q2-6	会場として舞台・客席以外に後方施設についての必要・必須事項があればお教えください。（バックステージ、楽屋、控室、リハーサル室、トラックヤード他、ロビー・ホワイエ）	A2-6	・楽屋（個室、大部屋それぞれ）、楽屋グリーンルーム ・11トントラックが留置できる搬入ヤード ・舞台荷物の溜め場 ・広い客席ロビー ・舞台までの段差・エレベーターのない搬入動線 ・搬入口からロビーまで、スムーズな搬入動線など	機材空ケース置き可能な広めのバックステージ（留め場）、50～60人程度が利用できる充分な数の楽屋数（大サイズ3室、中サイズ4室 程度）・長机・椅子等の備品、楽屋電源取り口・容量、Wi-Fi、給湯室、楽屋エリア内の喫煙ルーム、暗転演出の為の非常灯消灯切替機能、11tトラック4台程度が終日待機できる駐車スペース、出演者や関係者スタッフ用の主催者駐車場の充実、物品販売・購入整列スペースが十分確保できるロビースペース、運営スタッフ用のロビー側控室、ロビー・物品販売展開用の十分な数の長机・椅子・掲示ボード・パテーション等の備品、キャパに応じた十分なトイレの数（特に女性トイレの個室数）、コインロッカー（100円返却タイプ／楽屋・ロビー）、洗濯機（乾燥機）	アマチュア公演時に使用する機材がホール設備としては必要。 楽屋の数は演目による必要数。 搬入搬出はプロモーターの反応に。11tトラックの出入りなど。搬出入時の騒音問題。 出演者の喫煙対策が必要。 公演前後に飲食できることが求められる。 女子トイレの数。バリアフリー対応。 ホールの数。ピアノの動線。ピアノは24時間空調保管が必要。 開場前の客の待機エリア。 ホール公演時に他空間への防音問題。 観音寺市ホールでも楽屋は不足する。 バックステージ動線。 可動観覧席はホールとしての質感が下がる。	楽屋、リハーサル室、ロビー・ホワイエ （指定管理施設を運営している経験から）

2 興行性についての検証

Q3. 計画地の市場性について				A社	B社	C社	D社
Q3-1	計画地に、上記（Q2）で示した条件を満たすホールが建設された場合、プロモーター他社による公演実施の可能性は高いと思われますか。	A3-1	低い	選択肢の一つとして検討する会場となります。	どれくらいの集客が見込まれるホールなのかによる。アクセス的に特段の不利は無く、車両のアクセスも良い。 ホールキャパの2/3くらいは駐車場が欲しい。 観音寺市1200とのすみ分けは出来るのではないか。 プロモータは公演から決めてホールを探す傾向にある。	高い（現在１０００席程度のホールが県内に少ないため）
Q3-2	計画地に、上記（Q2）を満足するホールが建設された場合、貴社として、そのホールで興行を実施する可能性はありますか。	A3-2	あまりない	選択肢の一つとして検討する会場となります。	興行する意思はある。 車で1時間程度範囲がマーケット範囲。 四国の中央に位置する三好市は立地的には優位であると考える。	可能性はある（理由は上記と同じ。ただし、指定管理料の額による）
Q3-3	Q3-2で「開催する可能性あり」とされた場合、想定される開催頻度（年〇回程度）および公演規模（観客数など）を教えてください。	A3-3		年1～2回（開催頻度を保証するものではありません）	民間事業： 300~600人なら6回/年、 800人なら4回、 1200人で2回/年。 指定管理事業の場合の開催：上記と同じ。	年６回程度（１０００人集客を目指す事業１回、４００～６００人程度の事業１～２回、その他小規模３～４回）
Q3-4	Q3-2で興行を開催するとされた場合、想定される公演のジャンルを教えてください（例：音楽コンサート、演劇、伝統芸能、講演会、その他）。	A3-4		音楽コンサート	クラッシック系、演劇系、伝統芸能系 美馬市ミライズでもフルオーケストラ（広島交響楽団）で500席満席だった。（文化庁の補助金事業）5~6000円位？	

2　興行性についての検証

興行主ヒアリングの結果のまとめ

興行の損益分岐点

- 大型公演　1,500人～2,000人
- 中規模公演　800人～1000人

- 公演原価　4.0百万円（超概算）
- 原価率40～60%が事業として成立するライン
- 4.0百万円÷（40～60%）＝10.0～6.0百万円
- 800人～1200人で逆算　→ 12.5千円/人×800人＝10.0百万円
  → 5.0千円/人×1200人＝ 6.0百万円

※現実的には、チケットは4,000～3,000円程度が相場

民間興行開催のための必要設備

舞台機構	• 東京フォーラム　ホールC同等 • 観音寺市ハイスタッフホール同等	
舞台照明	• 東京フォーラム　ホールC同等 • 観音寺市ハイスタッフホール同等	多くの事業者は照明設備は持ち込み機材にて公演する
舞台音響	• 東京フォーラム　ホールC同等 • 観音寺市ハイスタッフホール同等	多くの事業者は音響設備は持ち込み機材にて公演する
音響環境	• 東京フォーラム　ホールC同等 • 観音寺市ハイスタッフホール同等	残響時間など、ホールの音環境には細心の配慮がされた設計が求められる
その他	• 搬出入口・搬出入動線 • 11tトラック　2～4台の寄り付き • プラットホーム • 楽屋（50～60人使用） • リハーサル室 • ロビー・ホワイエ • 出演者喫煙対策 • ピアノ庫　ピアノ動線 • 音響反射板 • 緞帳 • グッズ販売スペース • 出演者・関係者用駐車場 • 充分なトイレ（特に女子） • コインロッカー • 洗濯機・乾燥機	

民間興行誘致のホールには　高度な設備と施設が　求められる

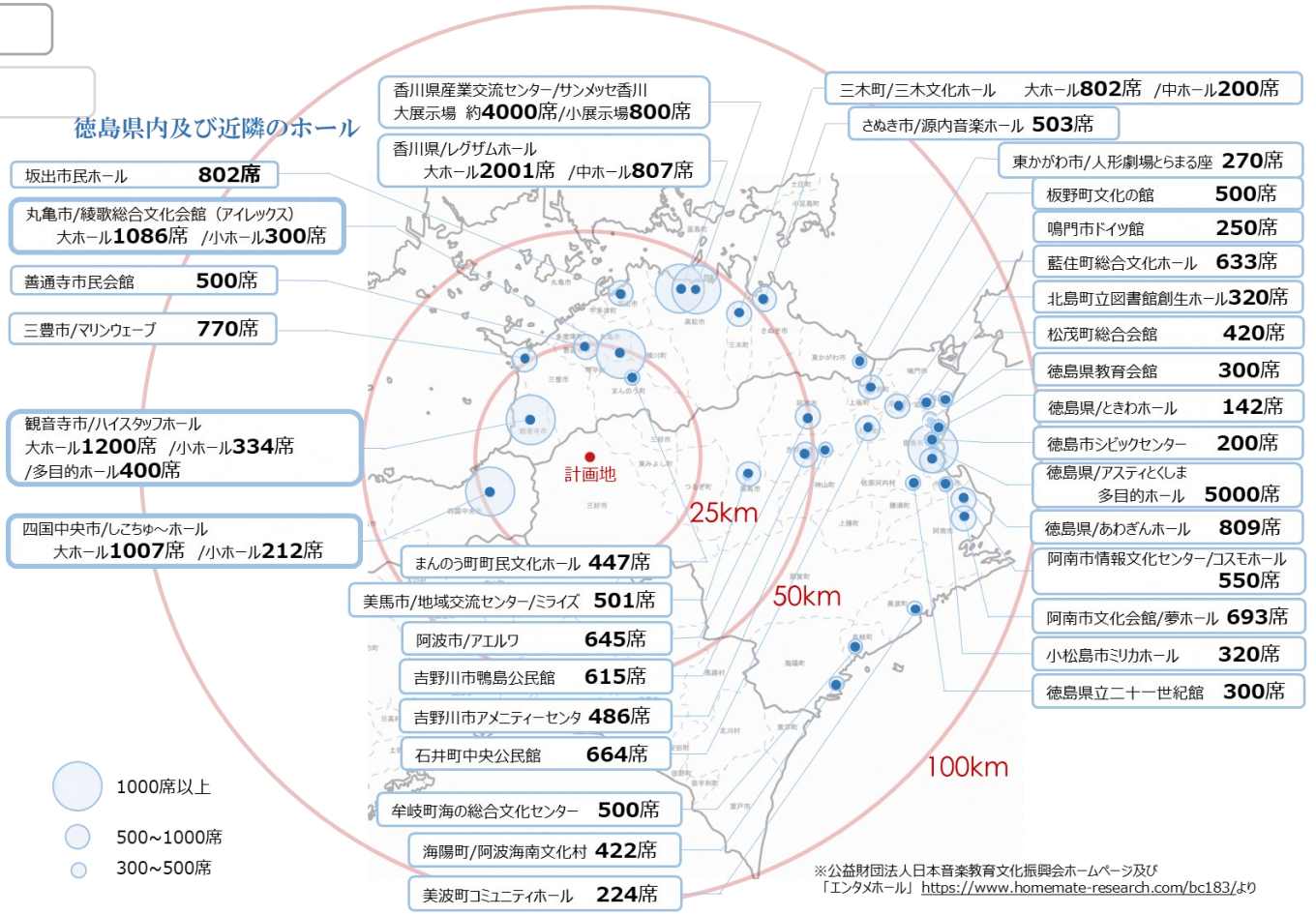
各施設の課題と整備方針（ホール）

2 各施設の課題と整備方針

2-4 ホールの課題と整備方針

2-4-1-3 近隣ホールの整備状況

三好市近辺のホールの整備状況としては船井跡地から直線距離で25㎞以内（車両移動で30分程度）に1,000人収容ができるホールは３館あり、また、50㎞圏内には５館があります。このため新施設で民間興行を誘致するには、競合施設が多く、厳しい状況といえます。一方で利用する観点からは、利用できる高品質の施設が近隣に多くあるといえます。



各施設の課題と整備方針（ホール）

2 各施設の課題と整備方針

2-4 ホールの課題と整備方針

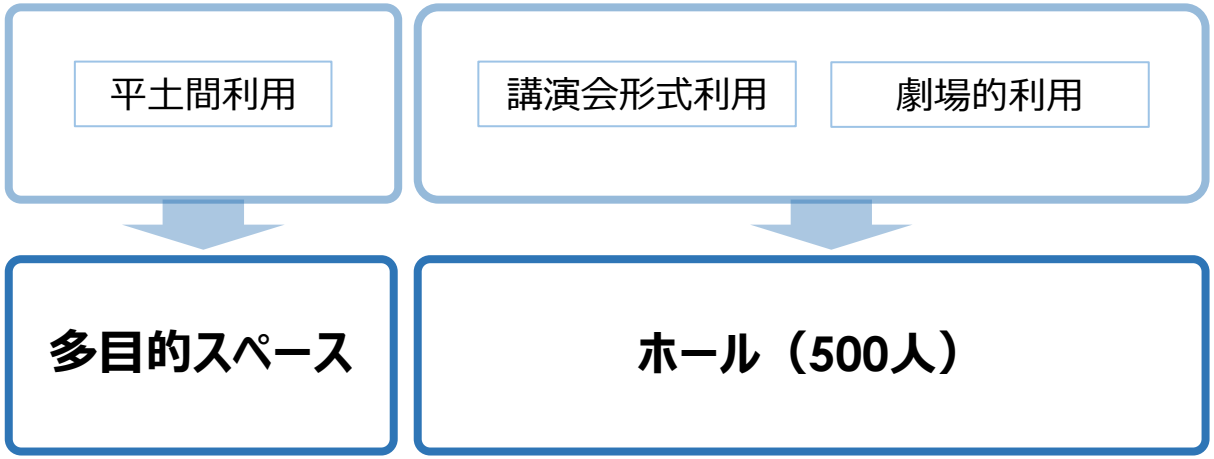
2-4-1 ホールの現状と課題

2-4-1-5 整備方針

これまでの市主催イベントや集会では、講演会や式典などを中心に300人規模の利用が多く見られました。こうした実績を踏まえるとともに、市民の文化活動や教育活動、講演会・シンポジウムなど地域交流を伴う催しに対応できることを目指し、500席規模のホールとして整備を想定します。

ホールは、大規模な民間興行を誘致する場ではなく、成人式や学校発表会、地域行事などの公的利用を中心に多様な活用を想定します。さらに、池田総合体育館等との連携を図りながら、小規模なローカルMICE（会議・研修・学会・イベント等）の受け皿としても活用し、地域内外からの来訪者を受け入れることで、多様な利用に柔軟に対応できる空間とします。

また、にぎわいの創出や滞在促進については、ホールに加え、図書館、屋内広場、カフェ、屋外イベント空間など新施設全体の複合的な活用（多目的スペース）によって実現を図り、市民の日常的な利用と広域的な交流の双方を支える拠点づくりを目指します。



※これまでホールのみで検討していた空間の可変機能は、上記のとおり平土間空間（多目的スペース）とホール空間をそれぞれ区分し整理することから、コスト面で有利な固定席での検討を進めます。

2 各施設の課題と整備方針

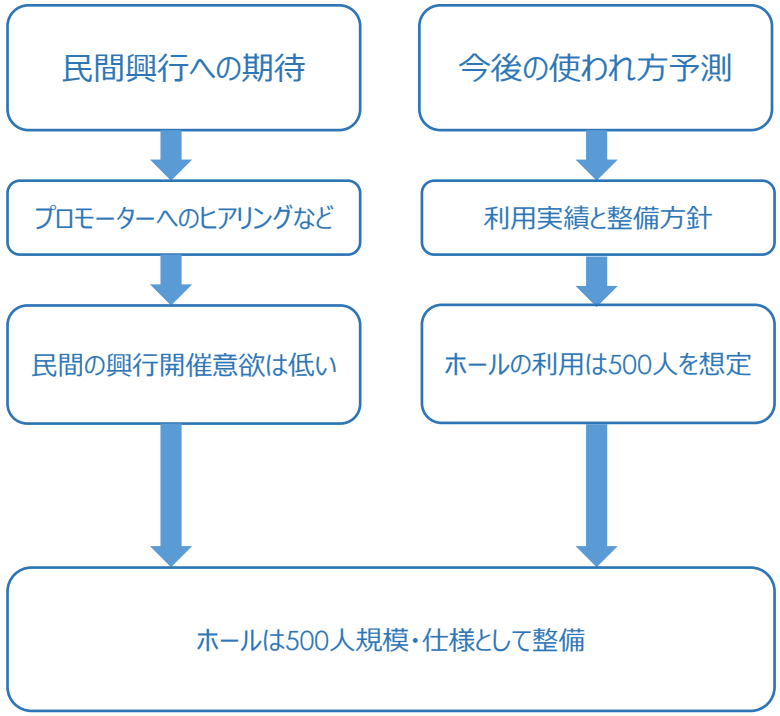
2-4-2 新施設におけるホールの目指す姿

新施設のホールは、先に整理した整備方針を踏まえ、大規模な民間興行を前提とする劇場型ホールではなく、市民利用を主体としたホールとして整備します。

人口減少と財政制約が進む中にあっても、将来的な負担を抑えながら、市民が気軽に文化・芸術に触れられる場を提供し、地域の文化振興と交流の拠点となることを目指します。

規模は500席程度とし、音響や照明などの設備は必要十分な水準に留め、効率的な仕様とすることで、初期投資や維持管理コストを最小限に抑えます。

また、成人式や学校発表会、地域行事などの公的利用をはじめ、講演会やシンポジウムなど幅広い催しに対応できる場とし、500人を超える大規模イベントについては、池田総合体育館など既存施設を活用します。



※500人を超える利用は池田総合体育館の利用を想定する

各施設の課題と整備方針（新施設）

3 新施設の整備方針

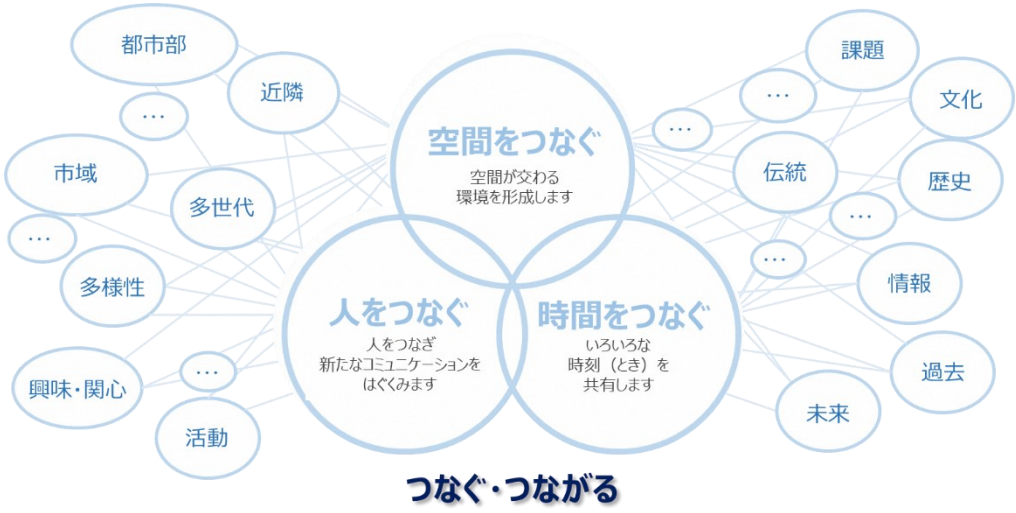
3-1 新施設の目指す姿　施設コンセプト

3-1-1 基本方針・基本的な考え方

新施設では、基本構想で掲げた「つなぐ・つながる」をコンセプトに空間・人・時間が自然につながる場を目指します。これら3つの観点をもとに施設全体を有機的に構成し、図書館、公民館（市民活動施設）、ホール（集会・イベント機能）をこの地にふさわしい規模で配置し、小さな子どもから高齢者まで、三好市および周辺の住民が心地よく滞在できる、市民にとってのサードプレイス（第三の居場所）となることを目指します。こうした環境を実現するため、各機能を有機的に組み合わせ、互いの魅力を引き出し合う空間構成とします。

3-1-2 融合による施設の合理化

施設を融合することで、重複する機能空間などを最適化し、空間同士がシームレスにつながることで、多様な活動や交流が自然に生まれる環境づくりを図ります。こうした融合による相乗効果を活かし、初期投資や維持管理費用の効率化を図るとともに、市民に開かれた交流の場を目指します。



各施設の課題と整備方針（新施設）

【注記】
便宜上、利用対象者を「市民」と称するが、三好市市民に限らず新施設を利用できる人を総称する。

3 新施設の整備方針

3-1 新施設の目指す姿

3-1-3 施設の全体像

図書館

知の拠点として、
図書の保管・貸出の他、
市民の居場所として場の提供

空間のイメージ

従来の利用者に加え、
読書に関心が低い市民も
気軽に訪れ、施設を利用し、
その中で偶発的に本に触れ
また本に限らず情報や知に触れる
市民の居場所

公民館（市民活動施設）

市民活動の拠点
コミュニティセンター

空間のイメージ

より多くの市民が
気軽に集い、活動し、発信できる
市民活動の拠点施設

多目的ホール

文化教育の拠点
市民と文化芸術との
接点となる空間を提供

空間のイメージ

多くの市民が
より気軽に
より多く
文化芸術に触れる空間

施設のコンセプト（基本構想） **つなぐ・つながる**

＜施設の全体像＞

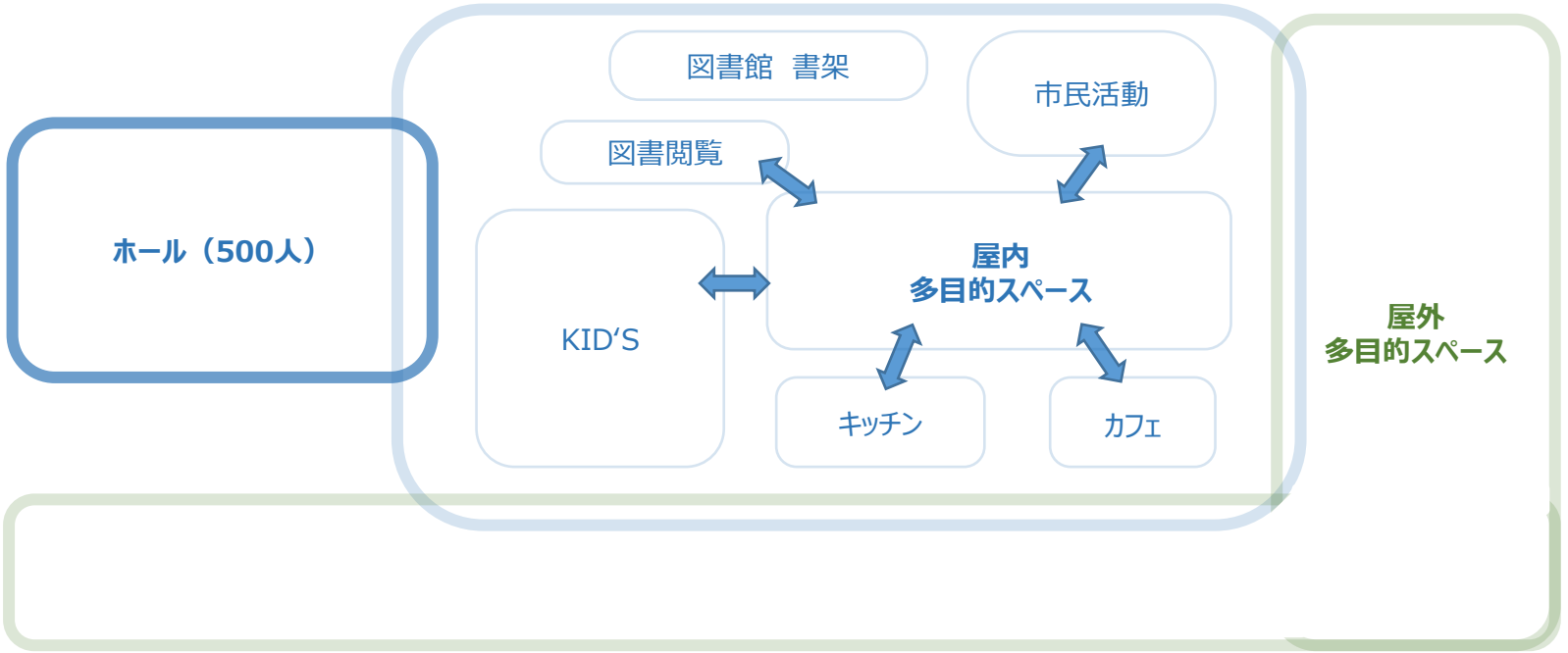
世代や立場を超えて多様な活動を生む　市民のサードプレイス

3 新施設の整備方針

3-1 新施設の目指す姿

3-1-4 施設の概念図

新施設（市民のサードプレイス）の空間概念図を下記に示します。

ホールは500人規模とします。図書館と市民活動施設の複合施設では施設の日常利用に資する機能として期待されるカフェやキッズスペースを確保し、各機能・空間をシームレスにつなぎ、多様な活動や交流が自然に生まれる環境づくりとして多目的スペースを設けます。

新施設では、災害時における支援人材及び救援物資の地域内輸送拠点や集配拠点として活用することで市域の被災地等を支えることも想定します。